

平成22年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A	取組 名称	宮津市街地の景観まちづくりに関する調査研究
研究代表者：生命環境科学研究科・教授： 三橋 俊雄			
研究担当者： 京都府立大学（佐藤仁人、河合慎介、福井亘、青山公三（敬称略）） 外部分担者・協力者（安達仁和氏、稲葉年治氏、小谷保雄氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府宮津市、宮津高校 など			
【研究活動の要約】			
<p>本研究では、宮津市街地の景観まちづくりとして、本学が提示した、人とのふれあいを大切にしながら「おもてなし・にぎわい」を創造するための6つのフェーズ「彩り・巡り・集い・お接待・潮の香り・語り」の実現化に向けて、以下の項目をすすめてきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「彩り・巡り・集い・お接待・潮の香り・語り」をテーマとした人づくりとして、住民との「まち歩きワークショップ」の開催（3回） 2) 住民参加を促す「まちなかの語り部ネットワークづくり」の促進 3) 良好なまちなみ景観創出のためのルールづくりの予備的検討 4) 以上の活動を市民に周知いただくための「メディア発信」「パネル展示」「シンポジウムの開催」 			
【研究活動の成果】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 宮津市景観ワークショップ(6月、10月、12月)の開催と、講演を行いました。 2) 宮津市景観まちづくりシンポジウムを23年3月に行いました。 3) 冊子「宮津まちなか西部地区、出逢いの旅ノート」(61頁)を制作しました。 4) 瓦版「宮津市景観まちづくり通信」(A3両面)を制作しました。 5) シンポジウム発表収録「宮津まちなか西部地区・住んでよし訪れて良しのまちづくりに向けてー宮津まちなか観光の仕掛け提案ー」(6頁)を制作しました。 6) 宮津西部地区インタビュー報告書(35頁)を制作しました。 			
【研究成果の還元】			
<p>H22/6/28 宮津市松ヶ丘公民館、関係者等約30名「宮津市景観ワークショップ(1)」 H22/10/20 宮津市松ヶ丘公民館、関係者等約30名「宮津市景観ワークショップ(2)」 H22/12/8 宮津市松ヶ丘公民館、関係者等約30名「宮津市景観ワークショップ(3)」 H23/3/13 宮津市歴史の館、関係者等約60名「宮津市景観まちづくりシンポジウム」</p> <p>冊子「宮津まちなか西部地区、出逢いの旅ノート」(61頁)を制作しました。</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 地域・生活文化研究室 教授：三橋俊雄			
Tel: 075-703-5435 E-mail: tmitsu@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)



宮津市景観ワークショップ (2010年6月)

宮津市
景観まちづくり
通信 Vol.1

こんにちは。京都府立大学4回生の後藤英理子です。現在、私は宮津まちなかの活性化について研究しています。私たちが行っている西部地区の地域づくりについてみなさんに少しでも知っていただきたい、このようなものを作らせていただきました。

地域づくりに対する考え

五年の夏、私が西部地区を初めて訪れた時、歩らなくセンターでオススメの場所を教えてください、勧められた旧三上家住宅や、寺町などをぶらぶらと歩きまわりました。海と山に囲まれた環境、昔から変わらない通り、古いお寺や木造の住宅、化粧地蔵など、まちなかに西部地区の宝がほめられていました。そんな中、池ノ谷のトンネルの所で2人のおばあちゃんが、「どっから来たん?」と話し掛けてくれました。何を話さなくても嬉しく感じました。初めての場所を訪れる時、面白いものだけでも、観光スポットだけでも、綺麗な景観だけでも、満足できないのではないのでしょうか。そこにはやはり、人と人の触れ合いがなくてはならないのだと思います。来訪者に、気軽に話かけてくれたおばあちゃん。このおばあちゃんを西部地区全体に広めたい私は考えました。実際の所、駅や、歩らなくセンターに行けば地図が置いてありますが、来訪者はそれを片手に無言でまちなかを散策しているのではないのでしょうか。住民の方と接する場所が無い、話さきつかけがない、その橋渡しとなる仕掛けがつかないかと考えています。

『住民の方々と来訪者の関わり合い』を大切に、来訪者に、宮津祭や和火といったイベントだけではなく、普段の西部地区、ありのままの西部地区を見てもらおう。そんなまちなか観光をみなさんと作り上げていきたいと考えています。

これまでの
ワークショップの報告

現在までに山王宮日吉神社界隈のまち歩きとワークショップを3回行いました。まち歩きを通して、普段見にも留めていなかった身近なまちの魅力の再発見と、ワークショップでの話し合いから、それらをどのように繋ぎ合わせるかということを見直し交換してきました。その時の様子をご紹介します。

2010年06月28日(月)
第1回まち歩き

1.三橋先生の発表
「語り部ネットワーク」

2.まち歩き
日吉神社、如願寺などを
見て回りました。

如願寺の本堂の欄間。
虎と龍と象の木彫りが
施されている。

日吉神社の階段上から
垣間見る宮津湾。

如願寺川の生活景。
川に降りて、洗い物を
されていた。

12月08日(水)
第3回ワークショップ

1.インドネシアからの研究生
ICHSAN HARJA さんによる西部地区の
水彩画の披露

2.スタンドグラスの披露
3.後藤の発表

①インタビュー調査とそれをういた仕掛けの提案
この時点までのインタビュー調査の報告とそれをういた仕掛けの提案を行いました。→裏面に記載。

②「私のお気に入り景観ベスト8」を発表
「私が好きな西部地区の景観を8ヶ所選び発表しました。景観」を大きくとらえ、大小様々なものを選びました。ここではその一部を紹介いたします。

2010年10月20日(水)
第2回まち歩き

1.まち歩き

浪花会館 → 金光稲荷神社 → 秋葉神社
→ 黒田酒店 → 亀が丘石垣
→ 袋屋前～ピータ通り → 旧三上家住宅

2.三橋先生の発表
まちの人と来訪者が交流できるまちなか観光の提案を行いました。

3.後藤による発表
まちの人と来訪者が交流できるまちなか観光の提案を行いました。

提案1「まちなかミュージアム」
アートネットワークみやづ、和火での催し、蘇村祭りの催し、住民の方の生菓や趣味の品々といったものの展示をまとめて、まち全体をミュージアムにしてはどうか。大塚平野町くるみ博物館を参考に。

提案2「まちなかサロン」
増えつつある空き家などを活用し、住民も来訪者も集うことのできるサロンを。

4.意見交換
集まってくれた方々からは、
「もっと簡単にできることから始めたい。」
「自ら声を掛けるというのは苦手です。」
「来訪者に説明するにも詳しいことは分からない。自分たちも勉強しないといけないが、全てというわけには... 説明冊を置いてほしい。」
といったように、消極的な意見が自立ち、今後の課題となりました。

黒田酒店
古い建物が残っている。

亀ヶ丘の石垣

袋屋醤油店前。

化粧地蔵。

レトロな消火栓

如願寺川から
見た宮津湾

宮津市景観まちづくり通信 (2011年3月)

4.意見交換
集まっていた方々からは、
「あれは無理、これは苦手と始めから決めつけるのではなく、やってみるも案外、楽しいかもといった、マインド作りからはじめていくことが重要。」
「年をとった方にさまざまな話を聴いておく必要がある。」
「自分のことだから始めたい。」
といった、積極的な意見が多数で、一歩前進した話し合いとなりました。今後このような形で、話し合いの場がもたれ、意見を出し合うことが重要であるという認識が共有されました。

5.「残したいわたしたちのまちなか景観アンケート」
集まっていた方々には、残したい、楽しみたい、好きな、気の休まる西部地区の景観のアンケートに答えていただきました。

6.まちの景観に対する意見出し
第1回、第2回まち歩きの写真、および、現在道路の改修が進められているピータ通りから袋屋醤油店前までの写真を壁一面に並べ、各自、コメントを記入しました。